

メリットとデメリット—テキストマイニングによる分析—

宇治田さおり*1 川口賀津子*1 吉村千草*1 高木良重*2

*1福岡国際医療福祉大学看護学部看護学科 *2福岡大学医学部看護学科

1. 目的

超高齢社会の進展に伴い、看護職の人材不足は喫緊の課題である。高年齢者雇用安定法改正(2021年)により、定年退職後も就労を継続している看護師(以後、プラチナナースとする)は年々増加している(衛生行政報告例,2020)。本稿では、プラチナナースが認識する就労のメリットとデメリットを明らかにする。

2. 研究方法

- 対象者:** 200床未満の病院に勤務するプラチナナース
調査対象: JMAP地域情報Webシステムから200床未満の病院を抽出、県別の病院数を勘案し層化抽出した600病院
調査内容: ①基本属性:年齢、性別、看護師経験年数、勤務病院の病床数、職位、雇用状態、家族背景など
 ②自由記述:「仕事を続けるメリット(良いこと)はどのようなことですか」「仕事を続ける中でのデメリット(大変なこと)はどのようなことですか」
 ③調査時期:2023年1月~2023年3月
調査方法: ①調査対象施設の代表者に研究参加依頼書を送付
 ②承諾の得られた42病院に無記名自記式質問紙を送付し、対象者へ配布を依頼
 ③回答は、郵送法あるいはWeb回答
分析方法: 得られた自由記述データをテキストマイニング KHCoder(樋口,2014)で分析
倫理的配慮: 研究の目的や方法、無記名自記式質問紙への回答は自由意志であること等について文書で説明した。本研究は、福岡国際医療福祉大学倫理審査の承認を得て実施した(22-fiuhw-007)

3. 研究結果

◆質問紙調査票を郵送した200名のうち、184名(回収率92%)より回答を得た。就労継続のメリットは162名、デメリットは147名の記述があった。両方に記述のない15名のデータを削除し169名分(有効回答率85%)を分析した。

Table 1 対象者の特性

項目	平均±SD	人数
年齢(歳)	64.4±5.7	169
n = 169		
項目	内訳	人数
性別	男性	6
	女性	163
看護師経験年数	~29年	17
勤務病院の病床数	30年~	152
	100床未満	59
定年退職前の職位	100~200床未満	95
	その他	15
現在の職位	スタッフ	68
	管理職	84
雇用の状態	その他	17
	スタッフ	124
夜勤の有無	管理職	16
	その他	29
家族背景	正規職員(フルタイム)	59
	短時間・嘱託・パート	101
子供の有無	その他	9
	有	28
自宅での介護の有無	無	123
	有	18
自宅での介護の有無	一人暮らし	25
	家族と同居	143
子供の有無	有	152
	無	17
自宅での介護の有無	有	18
	無	151

Table 2 テキストデータの概要

メリット		デメリット	
総抽出語			
1412 語		1697 語	
出現回数多かった語と回数			
1位	生活(57)	1位	仕事(40)
2位	仕事(32)	2位	体力(32)
3位	社会(29)	3位	思う(27)
4位	収入(17)	4位	自分(17)
5位	メリハリ/患者(15)	5位	給料(15)

Table 3 就労継続のメリット

- 【看護師としての仕事の充実感】
- 【生きがいの実感】
- 【メリハリのある生活】
- 【体を動かし健康の維持】
- 【収入および新たな知識の獲得】
- 【自己効力感の向上】
- 【社会参加】
- 【社会貢献】
- 【体力の維持】
- 【経済的な安定】

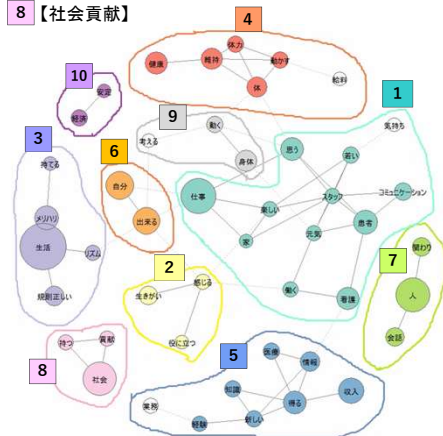
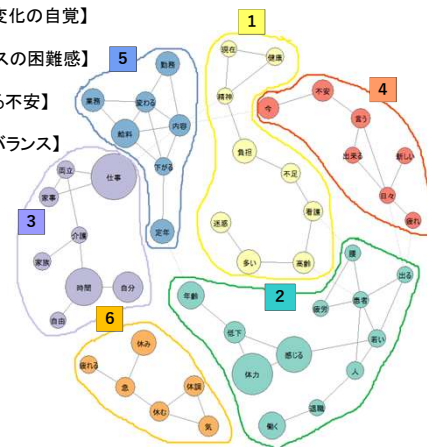


Table 4 就労継続のデメリット

- 【他者に迷惑をかけることによる精神的負担】
- 【加齢に伴う身体的変化の自覚】
- 【ワークライフバランスの困難感】
- 【新しい業務に対する不安】
- 【労働と収入のアンバランス】
- 【休暇申請の困難さ】



4. 考察

プラチナナースは、就労継続のメリットとして仕事の充実感や健康の維持など、非経済的な側面を複数認識しており、看護の専門性を発揮できることに生きがいや喜びを感じていると考えられた。デメリットとして加齢に伴う身体的変化により他者に迷惑をかけると感じており、「他者への配慮」という看護の職業的特性(岡本,2010)が、自身の負担感へつながっている可能性が示唆された。今後、プラチナナースの就労継続を目指し、個々に応じた支援体制の整備が課題である。

【引用参考文献】

- 厚生労働省(2022):令和2年度衛生行政報告例の概況。 https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei_houkoku/20/(参照2023年6月15日)
 樋口耕一(2014):社会調査のための軽量テキスト分析。ナカニシヤ出版、京都。
 岡本祐子(2010):女性の生涯発達とアイデンティティ—個としての発達・かわりの中での成熟—。北大路書房、京都。

◆本研究は文部科学省科学研究費(基礎C課題番号21K10831)の助成を受けた研究の一部です。筆頭演者は日本看護科学学会へのCOI自己申告を完了しています。演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・組織および団体等はありません。